長畝ふるさと通信

【2026年9月号】

■ お待たせいたしました

９月は秋雨前線の停滞と相次ぐ台風によって、例年になく稲刈りが遅れました。太平洋側は特に被害が大きかったようで、米価の下落とのダブルパンチで心が折れた生産者もいたのではないかと心配しています。コメの小売価格も5Kg　２，０００円代まで一気に下落し、生産者からは悲鳴が聞こえています。７月号で紹介した「コスト指標」では5kg　３，５００円程度が国の基準として示されたと紹介しましたが、全く反映されておらず、無責任な机上の空論に過ぎないと実感しています。我が国で唯一自給率１００％を堅持してきたコメも、このままでは後継者がおらず、生産量はガタ落ちしてしまうでしょう。国の農政が問われる重要な問題ですが、新しく就任した農水大臣は「ヤナ感じ」で不安しかありません。

しかしながら８年産米は順調に生育しており、以下の成績となっています。今年度新たに色彩選別機をより能力の高い機種に更新したので、さらに品質の高い出来となっています。是非、ご賞味ください。

● 一般的に「食味値」は８０点あれば美味しいと評価されています。

■ 生き残るための投資も必要

コメが安いと嘆いてばかりいても、ボクたちはコメで生きていくしかないのです。消費者の皆さんから評価され支持されるコメでなくてはなりません。トキ認証米の原点に帰ってトキと共生しながら生物多様性や環境を大切にするコメ作りはもちろんのこと、品質の向上や低価格にも耐えられるよう、コストカットも必要です。今年導入した色彩選別機は従来のものよりより細かな選別と処理能力の速さが特徴で、これまで以上に粒の揃ったきれいなコメになっています。また、米屋さんで扱っていただく玄米袋もこれまでは4人がかりで手縛りしていましたが、自動結束機を導入して一人で対応できるようになり、人件費の削減となっています。この設備投資に数千万円かかりましたが、生き残っていくための先行投資も必要と考えています。

右の玄米袋自動結束機は袋をセットしてやると自動的に計量された玄米が袋に入り、その流れでミシンが閉口してくれます。これまで4人で行っていた作業をたった一人で今までよりも早く処理できるようになりました。しかも、手が痛いとか腰が痛いとか一切文句も言わず、黙々と働いてくれる憂いヤツです。

■ 秋の夜長はスポーツ観戦

この秋はアジア大会を中心にスポーツ観戦が連日熱かったです。アジア大会では日本が過去最多の269個のメダルを獲得し、日本のスポーツ界も国際競争力が高まって誇らしげに、毎晩興奮しながら観戦していました。テレビで見ると日本が一番メダルを獲得していると思いきや、中国は金169個、銀89個、銅83個と日本を圧倒的に上回る341個のメダルを獲得したそうで・・・。国のスポーツに対する熱量が違うのか、圧倒的人口が多い中で優秀な人材が豊富なのかはわかりませんが、ちょっとショック。日本のマスコミは良いところばかり、視聴率が稼げる試合ばかり取り上げていて、客観的な評価としては伝えていない印象を持ちました。一党独裁国家は国の政策が反映しやすいのでしょうが、日本ももう少し強力なリーダーシップが必要ではないでしょうか。

令和8年産米もよろしくお願いいたします。

おかわりは自由です！